KOCHOだより ㉚

令和４年(2022年)８月６日

山口調理製菓専門学校長　須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ 大局

昔購入した旺文社の国語辞典には「広く全体を見通した物事のなりゆき」とこのことばが解説されていました。将棋や囲碁ではこのことが大切だろうと思います。スポーツ、例えば野球の守備についているとき投手や打者そしてランナーの動きなども考慮しながら位置を変えていく場面もこのことが必要だろうと思います。学校においても目の前の現象だけでなく対象者の将来像も考慮しながら児童・生徒・学生を指導するという視点が大切でしょう。他のどんな仕事においても同じことが言えるでしょう。

大きな話題を取り上げてしまいましたが、これから記述することは取るに足らない内容ですので適当に読み流していただければと思います。

今私はほとんどの場合電車通勤をしているということは以前記述しました。乗っているときはある意味“ひま”なので、いろいろなことを考えたりしたりしています。その中の一つです。それほど混んでいないけれど座席はだいたい誰かが座っているという状況の時、私は立ったまま電車の揺れと対決しています。つり革も手すりも持たずにどれくらいもちこたえられるかと試すことがよくあります。ある区間の出発から停車までを一つの区切りにしています。

結論を言いますと、ある工夫をしなければ数回は何かにつかまらなければもちこたえられません。毎日乗っていればどんなカーブがいつ来るか、いつ頃ブレーキが踏まれるかということはだいたい分かってきますが、私の運動神経では難しかったです。しかしあるときから可能になりました。その方法は列車の進行方向に向いて立ち、大局を見るというものです。最近は先頭車両の運転席が見えます。当然前方の景色も見えます。その景色の大局を見ながら、サーフィン（列車の床が板ですね）でもしているように揺れを感じていけば何も持たなくても大丈夫でした。これは最後尾の車両でも同じです。車両全体を見わたすとともに左右に流れていく景色の大局を見るようにすれば可能でした。　膝でその揺れを吸収しながら何も持たずに下半身を動かしている“おじいさん”を不思議に思って見ている人が何人かいるかも知れません。　↓カタログの写真を見ながら私が以前描いたものです。０系の絵は想像なので間違いがあります。何でしょう？

○ 自校自賛

最近は大雨で山陽本線が運転見合わせになったりなにやらの、いろいろなことが重なって授業変更や担当者の変更などの影響が本校に降りかかっています。それでもやりくりをしながら予定されていたものが実施できている状況を自賛したいと思います。

今回の植物　：　ピーマン　　トウガラシの仲間だそうです。我が家の畑で実ったものを持ってきました。完全無農薬（手抜きともいう）のため、葉や実を虫たちがかじっていますがあえて展示してみました。以前リンゴを描くよりもピーマンのほうが描きやすいということを記述しました。形の成り立ちは似ています。リンゴにシワをよせて少し細くするとピーマンになります。ピーマンをもっと細くして先をとがらせるとトウガラシになります。子どもの頃は嫌いでしたが、今は大好物です。味覚は成長によって変わってくるのでしょうね。自然な変化は受け入れようと思います。高齢者になるとまた違う変化があるのでしょうか。私の味覚は今のところこれまでと変わっていません。学生たち（希望者）は先日まで介護食の学習をしていました。料理は見た目も味も大切なものですね。